

NAVIFY® Tumor Board



手間のかかるデータの輸入は、
自動入力に任せて、
医師本来の仕事に専念したい。

VOICE of EXPERT

Vol.1

後編

神奈川県立がんセンター がんゲノム診療科 医長
がんゲノム診療センター センター長

廣島 幸彦 先生

エキスパートパネルを実施するにあたり、大きな課題となっていた資料の準備。

その課題を解決するために新たに開発された「NAVIFY Tumor Board」用データ入力サポートソリューション(RPA*)について、神奈川県立がんセンター「がんゲノム診療センター」の廣島幸彦先生にお話を伺った。*Robotic Process Automation

エキスパートパネルの実施回数が
増えるに従い、入力作業の
効率化が喫緊の課題でした。

—— NAVIFY Tumor Boardにデータ入力サポートソリューション(RPA)の機能が追加されましたが、導入以前はデータ入力に関してどんな点に苦労していましたか。

エキスパートパネルに臨むにあたり、事前に資料の準備が必要になります。その中で、C-CATからエクスポートされた「登録患者情報」や「ゲノム検査レポート情報」などの臨床データを入力していく作業があるわけです。

当初は週に5~6件程度の頻度でエキスパートパネルを実施していましたが、1例あたり20~30分程度の時間をかけて私自身が手作業で入力していました。ところが、連携病院が増えてくるに従って、エキスパートパネルでの

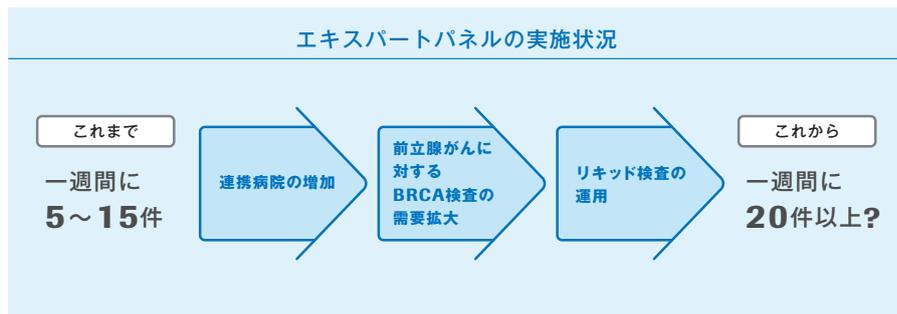
毎週検診症例数も増えてきますよね。そうすると、多い時で週に15件という状況になってきて、さすがに手入力では追いつかなくなってきました。当院では2021年5月現在で、4つの施設と連携していますが、今後、さらに連携病院が増えてくることも想定されています。

また、パネル検査を取り巻く状況も変わってきていて、前立腺がんのポピュレーションが急増しているのと、今後はリキッド検査の運用も視野に入れるとなると、週に20件という状況も考えら

れますので、入力作業の効率化は喫緊の課題でした。

うちは幸いなことにデータマネージャーさんを雇うことができ、C-CATへの登録はお任せできるようになりましたが、施設によっては医師が自らデータ入力をやっているところもありますよね。そこをRPAのような機能を導入して自動入力できれば、楽になるだけでなく、医師が本来やるべき仕事に専念できるだろうなと思っていました。

エキスパートパネルの実施状況



データ入力にかけていた時間が自由に使えて、データベースとして活用できるのも大きなメリットです。

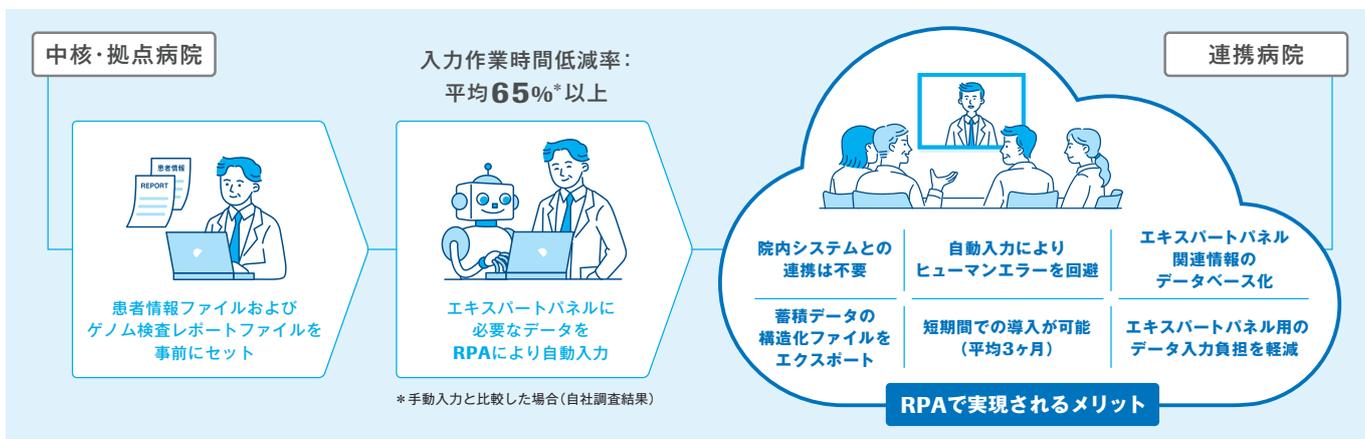
—— データ入力サポートソリューション (RPA) 導入後に実感できた効果についてお聞かせください。

データの入力に関しては、エキスパートパネルの資料としてC-CATの「登録患者情報」や「ゲノム検査レポート情報」などを入力する必要があるわけですが、これをマンパワーでやると1症例につき20分程度はかかります。ところが

RPAを利用すれば6分程度で終わります。しかもその6分の間は別の仕事ができるわけですから、本来、手入力にかかるはずの20分が、ほぼ丸々、自由に使えますよね。たとえば、週に10件のエキスパートパネルがあるとすれば、入力に本来なら200分の時間を要するわけですから、その効果は大きいと思います。

また、自動入力の場合はマンパワーで起こり

がちな誤入力のリスク回避にもつながるので安心ですし、これまでダブルチェックにかけていたマンパワーもある程度削減できますので、そういった部分でもメリットがありました。ただ、前提としてC-CATのファイルから取り込む際に、ファイル名だけは整える必要があるのも、そこさえ間違えなければC-CATの情報と齟齬がないカタチでデータを取り込むことができます。



—— データ入力サポートソリューション (RPA) 導入によって、エキスパートパネルの運営面での変化はございますか。



RPAを利用すると、エキスパートパネルで利用するデータだけではなく、がん種や年齢、治療情報、検体情報など、記載すべき項目に合致した情報をすべて自動で入力してくれるので、勝手に構造化データに仕上げられます。これがあると後で検索がかけやすかったりして、データベースとしても活用できるようになります。目の前のエキスパートパネルに間に合わせて資料をつくるだけではなく、中長期的に活用できるデータベースができあがるのは、大きなメ

リットでしたね。

—— 今回、NAVIFY Tumor Boardに付随したデータ入力サポートソリューション (RPA) を導入いただきましたが、こういったシステムを導入する際に重視したのはどのような点でしょうか。

自施設や連携病院がすでに導入している電子カルテなどの大掛かりなシステムに手を加える必要がないので、コスト面でかなり安価に導入できるというのは大きいですね。NAVIFYはシステム自体の操作性も非常にシンプルなので、自施設のシステム担当者などをわざわざ呼ばなくても導入できてしまう簡単さがありました。

また、NAVIFYはクラウドのシステムですから、端末に頼らずにどこからでも利用できること。それでいて、セキュリティに関しても国内にサーバーがあり、きちんと3省のガイドラインに沿ったレベルを担保している点は大きかったと

思います。

また、導入までに3ヶ月程度というスピード感で、実際にもう現場で使用できているので、その辺はとてもよかったと思います。

神奈川県立がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院として、神奈川県内のがん医療の中心的な役割を担う施設。がんゲノム診療センターを有し、がんゲノム医療の拠点病院として1年間に200例以上のエキスパートパネルを実施している。

